



「ニッケル基超々合金」の金型サンプル

ハイテン工業株(大)を素材とした熱間鍛造な鍛造技術用金型の開発大阪府立大学工学研究科の金野泰教授ら研究グループが開発した「ニッケル基超々合金」は、ミニウム、バナジウムを中心とした金属間化合

「発を実現したい」と話す佐
川社長「阪府堺市、佐伯知哉社長」
用金型の開発に取り組んで
物（特許取得済）。耐摩耗性・加工性に優れており、特に600℃以上の
高温域において既存の耐熱合金よりも高い引張強度を有しているほか耐食性・耐酸化性にも優れる

高精度鍛造の実現を目指す

熱間鍛造用金型を共同開発

ハイテク工業・大阪府立大学

機械・工具・資材

SW（摩擦攪拌接合）用
金型、軸受、粉末冶金、
肉盛溶接など事業化へ向
け用途開発が進められて
おりこのうちハイテン工業
は3年前より大阪府立大
学と共同で熱間鍛造用
金型の開発に取り組んで
いる（特許取得済）。研
究グループによれば従来
の超硬合金(WC-CO)
や工具鋼(SKD61)と
比較した場合、新素材の
金型は5～10倍の寿命向
上が期待できるという。
同社は一昨年より複数
のメーカーで実証試験を

行つており、鍛造用金型としての必要特性の調査および試験を実施している。佐伯社長は新素材の金型について「特に航空機や自動車、プラント等の分野においてチタンなどを用いてニッケル合金の熱間鍛造が課題となつてい

る」とした上で、「現は铸造により加工して、ると聞くが、新素材の型であればより高精度熱間鍛造が可能となる大きなマーケットとなるのではないか」と話した。開発にあたっては「大側と連携しながら『堺

か 學 る な い 金 状 に 役立つ いる。 オンリーワン の 技術 を 追求 する 一方 で 改善 活動 を 進めて いきたい」と 話し、 新規 事業 への 意欲 を 示した。

ハイテン工業㈱ 大阪府 堺市 美原区 平尾 679、 電話 072-361-8110



共同不特許有取得

佐伯社長

ら世界へ』を合言葉に日々研鑽に励んでいる」という。